



ショートコメント

★★★

Data 2025-67

監督・脚本：フィーラ・バー  
テンス

原作：リゼ・スピット『Het  
Smeit』

出演：シャーロット・デ・ブ  
リュイヌ／ローザ・マ  
ーチャント／ナオ  
ミ・フェリサリウ

## MELT メルト (Het Smeit)

2023 年／ベルギー・オランダ映画  
配給：アルパトロス・フィルム／111 分

2025（令和 7）年 7 月 28 日鑑賞

テアトル梅田

### 👁️👁️ みどころ

少年少女時代は楽しい思い出がいっぱい！そう言えればいいのだが、13 歳の少女エヴァが“三銃士”の 1 人として遊んでいた時の「苦い思い出（トラウマ）」とは？

一休さんのとんちがウィットに富んでいるが、「正解したら賞金をもらえるが、間違えたら服を脱ぐ」というハレンチな設定の超難問クイズ、「家具も何もない部屋で男が首を吊っている。男の足元には大きな水たまりがある。男はどうやって首を吊ったのか？」の正解は？

大人になったエヴァが追悼会への出席を決めたのはなぜ？彼女が車の中に謎めいた大きな氷の塊を積み込んだのはなぜ？そして何よりも、本作が「映画史に残る後味最悪〈胸糞〉の傑作」と呼ばれるのは一体なぜ？それらをしっかり考えたい。

◆誰でも子供時代には幼馴染と遊んだ思い出がたくさんあるが、その中には「いい思い出」だけではなく、「苦い思い出」もあるはずだ。普通は、そんな苦い思い出を他人に語ることはないが、本作では、大人になり、今はブリュッセルでカメラマンの助手として働く主人公・エヴァ（シャーロット・デ・ブリュイヌ）が、少女時代のエヴァ（ローザ・マーチャント）が体験した「苦い思い出（トラウマ）」を語る形で、「映画史に残る後味最悪〈胸糞〉の傑作」が完成！

チラシには、「大人になりたいと望んだ時、少女の無邪気さは跡形もなく消えた」の見出しが躍っているが、さて、その意味は？

◆親しい友人も恋人もおらず、両親とは長らく絶縁状態にあるエヴァのもとに、彼女が少女だった 13 歳の頃に不慮の死を遂げた少年ヤンの追悼イベントが催されるというメッセージが届くところから本作の物語がスタートする。そんな設定はかなり不自然で、現実

は考えられないが、儂くも美しいリベンジ・スリラーならそれも有り！？

その報を受けたエヴァは、かつて“三銃士”と呼ばれる仲間だった男の子の兄・ヤンの死を追悼するため、車でふるさと村へ向かうことに。そこで注目すべきは、車の中に謎めいた大きな氷の塊を積み込んだこと。この氷は一体どこで、何に使うの？

◆私は男だから 13 歳の女の子の気持ちはわからないが、思春期になれば女の子の身体は男以上に大きな変化が起きるから大変だ。その上、13 歳になった彼女のアルコール依存症の母親は妹だけをかわいがり、気が短く、怒りっぽい父親はいつキレるかわからないから、その点でも大変だ。そんな家庭に反発しているエヴァは、“三銃士”と呼ばれる幼馴染の男の子とのグループに“安住の地”を求めているが、男 2 人に女 1 人の三銃士（三角関係？）のあり方はかなり微妙だ。

その年頃の男の子が女の子に性的興味を示すのは当然だから、三銃士の 2 人の男の子がエヴァ以外の女の子に興味を示したのは仕方ない。その上、エヴァが片思いしているティムは、「クイズに正解したら賞金をもらえるが、間違えたら服を脱ぐ」というハレンチなゲームを提案し、エヴァはゲームに参加する女の子の調達と超難問クイズの出題を担当することになったから、話はややこしい。ティムに嫌われたくないエヴァは必死でその役割を果たしていたが、エヴァには女の子としての魅力がないことをティムが露骨に指摘すると、エヴァの三銃士内での立場が崩れさることに。さらに、その後に起きたある出来事で、自分の味方になる人間が誰ひとりいない現実を思い知らされたエヴァは・・・？

◆本作のチラシには、「映画史に残る後味最悪（胸糞）の傑作」の見出しが躍っているが、そんな本作は全編を通して不穏な雰囲気が充満している。そうになっている 1 つの原因は、三銃士がクイズに参加してきた女の子に出す「家具も何もない部屋で男が首を吊っている。男の足元には大きな水たまりがある。男はどうやって首を吊ったのか？」という超難解なクイズが何度も提示されるからだ。もちろん、私にもその正解は全くわからない。そのクイズに何人もの女の子が答えられず、服を脱ぐことを強要されてしまっていた。少女時代のそんなトラウマを抱いていたエヴァは、大人になった今、なぜティムの兄の追悼会への参加を決意したの？そしてなぜ車の中に氷を包み込んだの？そして何よりも、あの時のあの超難解なクイズの答えは？

その正解は、解禁されたティザーチラシに写る謎めいた大きな氷と靴を見ればすぐにわかる。しかし、ストーリー中ではそれは全然明かされないから、観客は消化不良のまま、上映時間の 111 分を過ごすことになる。もっとも、本作では追悼会の席で挨拶に立ったエヴァの迫力満点のスピーチに注目！そこではエヴァの復讐がとんでもない形で展開していくので、その胸糞悪さをしっかり胸に刻みつけたい。

2025（令和 7）年 8 月 1 日記